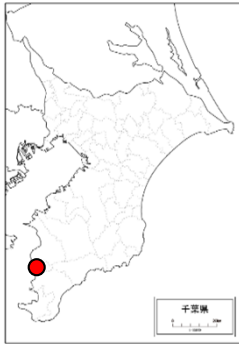


19.【陸域：食堂】 漁港施設用地を活用した食堂等の整備による来訪者の増加：保田漁港（千葉県鋸南町）

概要

- 魚価低迷等により漁協経営が厳しくなり、水産物の付加価値向上や直販等により収益向上を図ることが課題。
- このため、地元漁協は町単独用地と交換した漁港用地を利用し、魚食普及食堂「ばんや」をオープン。また、漁港の水面をフィッシャリーナ等として有効活用し、ビジターバース、観光定置網を運営。
- 少量多種な水産物が利用され、付加価値の向上や雇用の増加など地域水産業の活性化に大きく寄与。



背景

- ・水産物の付加価値向上や直販等による漁協の収益向上が課題となり、漁協自らが直接消費者へ水産物を提供する事業の実施を検討。
- ・平成7年に営業した漁協直営食堂の来客数が年々増加し、来客数の増加により、客の待ち時間が長時間化。
- ・施設規模の拡大により、受入数増や顧客満足度の向上が期待されるため、新たな施設整備を検討。

有効活用の内容

- ・町単独用地を占有許可とし、「第二ばんや」を整備。
- ・補助用地を町単独用地と交換して用地を取得し、「第三ばんや」を整備。
- ・食堂事業の他、ビジターバースや温泉・宿泊施設の運営、定置網の水揚げ学を実施。
- ・平成24年に「ばんや」を漁協事業から切り離し、株式会社化。

活用した漁港施設	漁港施設用地
実施時期	平成7年度～
実施主体	保田漁協
活用した事業	第三ばんや：農山漁村活性化プロジェクト交付金
実施した手続き	第一、第二ばんや：占有許可 第三ばんや：用地交換、占有許可、漁港施設用地利用計画変更 憩いの家・ばんやの湯：占有許可、漁港施設用地利用計画変更

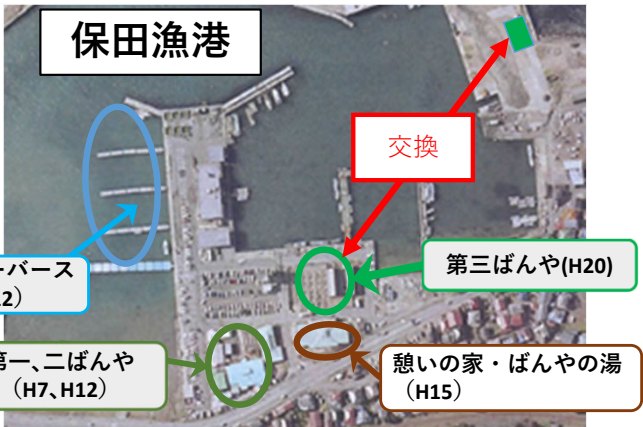
効果

- ・年間の来客数は平均約40万人。なお、R1年は台風被害の影響で売上金額と来訪者数が減少した。
- ・ビジターバースの整備により、船による来訪者も増加した。
- ・ばんやで提供する水産物は漁協が入札参加し仕入れるため、魚価低迷に歯止めがかかった。
- ・調理することで水産物に付加価値が付き、販売単価が3倍に向上した。

第三ばんや外観



第二ばんや内観



保田漁港

交換

第三ばんや(H20)

第一、二ばんや(H7、H12)

憩いの家・ばんやの湯(H15)

